平成１５年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ホッケ

学名　*Pleurogrammus azonus*

系群名　道南系群

担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特徴

寿命：　不明

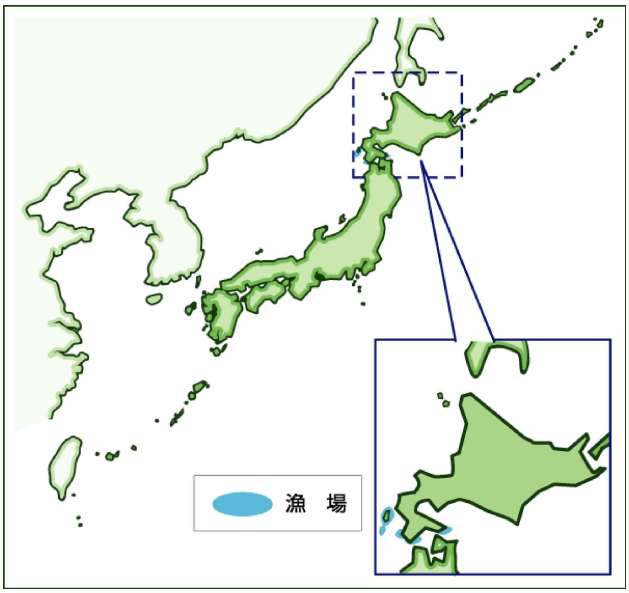
成熟開始年齢：　1歳の終わり頃（満2歳直前）

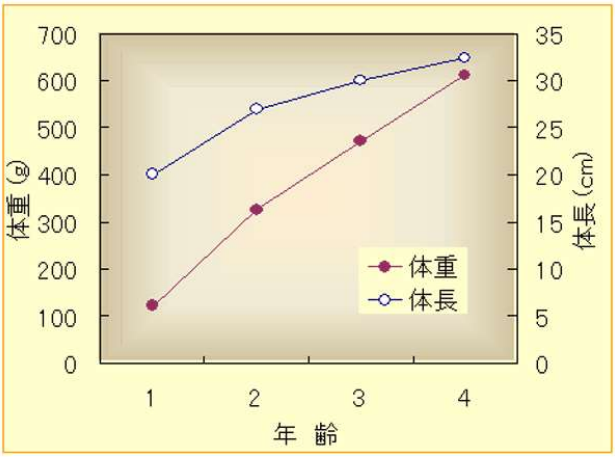
産卵期・産卵場：　産卵期は11～12月、産卵場は積丹半島西岸から渡島半島西岸にかけての北海道沿岸および奥尻島沿岸の岩礁域

索餌期・索餌場：　正確な索餌場は不明、分布域は、北海道渡島半島西岸から本州北部日本海および噴火湾から本州北部太平洋

食性：　仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は様々な種類の動物を捕食

捕食者：　不明



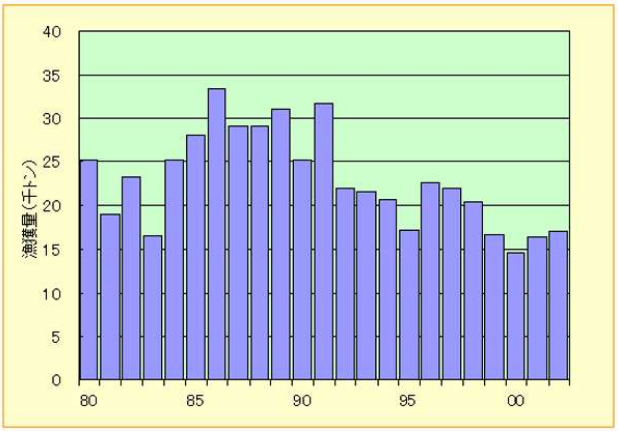


漁業の特徴

ホッケ道南系群は、当該海域の沿岸漁業（本州日本海では沖合底びき網漁業を含む）における主たる漁獲対象魚種の一つである。主に刺し網、定置網、底建網、まき網、釣り、篭などでほぼ通年漁獲され、特に春の索餌時期と秋の産卵期に漁獲量が増加する。

漁獲の動向

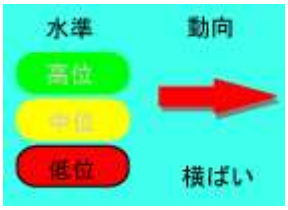
本系群の漁獲量は1980年代後半に3万トン前後の高い値を示した後、1992年以降2万トン前後まで低下し、近年は15,000～20,000トン前後で推移している。1990年代以降本州日本海における漁獲量が減少し、現在は相対的に北海道海域における漁獲量の占める割合が高くなった。



資源評価法

本系群のホッケの漁獲物は、そのほとんどが1歳と2歳で、漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析による資源量の推定に適していない。また、漁獲の大半は定置網や刺し網などの沿岸漁業によるものであり、CPUEなど漁獲量以外の資源量の指標を得ることが困難である。そこで、漁獲量の変化から資源動向を判断した。

資源状態



過去20年分（1983～2002年）の漁獲量の変化から資源水準を、また過去5年間（1998～2002年）の漁獲量の変化から資源動向を判断した。2002年の漁獲量は16,991トンで、1983年以降の漁獲量の変動幅（14,509～33,449トン）の低位に位置することから、2002年の資源水準は低位と判断した。また1998年から2002年までの5年間における漁獲量の推移は、1998年以降2000年まで減少傾向にあったものの、その後再び漸増傾向にあり、5年間を通じて資源動向は横ばいと判断した。

管理方策

1980年代後半に比べ、1990年代以降は資源水準が低い状態にあると推定される。しかしながら、1992年以降の10年間の漁獲量の推移からは、現行の漁獲量の下で資源は比較的安定していると判断できる。特に近年の漁獲の主体である北海道側海域では漁獲量の減少傾向が見られていない。そこで、ABClimitは過去5年間の平均漁獲量に0.9を乗じ、またABCtargetはABClimitに0.8を乗じて算定した。

	2004年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ＡＢＣlimit	15千トン	0.9Cave5-yr	-	-
ＡＢＣtarget	12千トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析が困難
- CPUEを得ることが困難であるため、近年の漁獲量から資源評価を実施
- 過去20年間の漁獲量の推移から資源水準を、また過去5年間の漁獲量の変化から資源動向を判断

資源管理方策のまとめ

- 1980年代後半に比べ、1990年代以降は資源水準が低い状態にあると推定される
- 過去10年程度は漁獲量が安定して推移しており、北海道側海域では漁獲量の減少傾向が見られていない
- 漁獲量が安定していることから、現行の漁獲水準を維持する

資源評価は毎年更新されます。